クラスのミニ文化祭を通して、仲間との絆を深める学級活動

行田市立桜ヶ丘小学校

１　議題　「クラスのミニ文化祭をしよう」　（第５学年　１１月）

２　活動のねらい

（１）クラスのミニ文化祭に向けた話合い活動を通して、自主的に豊かな学級生活をつくろうとする態度を育てる。

（２）クラスのミニ文化祭を通して全員で役割を分担し、仲間意識やクラスへの所属感を深め、協力し合う態度を育てる。

３　児童の実態

本学年の児童は、これまで「話合い活動」の経験が少なく、柱ごとに「出し合う・比べ合う・まとめる」といった「三段階討議法」で話合いを進めていく経験も浅い。そこで、年度当初に「学級会オリエンテーション」を行い、「学活ノート」を作成し、話合い活動のルールや流れを確認していった。第１学期には、「クラスの目標」、「クラスの旗」、「一学期お誕生日会」「一学期お疲れさま会」などについて、担任も交えながら、話合い活動を進めてきた。その結果、自分たちで意見を出し合い、活動をつくっていくことに喜びを感じる児童が増えてきている。

実践を繰り返す中で、男女問わず協力する姿が見られたり、帰りの会での「今日のありがとう」で発表される人が増えたりと、前向きなクラスの雰囲気が醸成されている。しかし、学級会を進めていくと、下記のような課題が明確になってきた。

・話合いが盛り上がると、相手の意見を批判的に受け止めてしまい、自分の意見に固執してしまう。
・１時間以内に話合いをまとめることができない。

このような児童の実態を踏まえて、「自分の意見を大切にしつつも、折り合いをつける力」や「相手の意見にも一理あると考えながら聞く力」「話合いを時間内に終わらせる力」を、話合い活動を通して育てていきたい。そして、教師の介入を必要最小限なものにして、児童主体の自治的に話合いが進行できるようにしていきたい。

さらに、高学年ということもあり、男女を意識し始める時期であるが、男女仲良く協力し、お互いの良さを認め合い、一人一人がクラスを作っているという充実感を味わえるようにしていきたい。本活動は、「ミニ文化祭」の中でグループごとに出店の準備から運営までを行う過程で、自他のよさに気づき、学級への所属感、自己有用感を感じることができると考え、本議題を選定した。

４　育てたい力と具現化に向けた手立て

（育てたい力）
〇折り合いをつける力
〇時間内に話合いを終わらせる力

（手立て）
① 話し合う必要性をもてるようにするための工夫
② 時間の見通しをもって活動に取り組めるようにための工夫

5　指導の実際

（１）事前の活動

手立て①　話し合う必要性をもてるようにするための工夫

①　議題案の収集

第２学期の学級会オリエンテーション後に児童全員に議題カードを配布して、様々な意見を収集するようにした。本学級の実態に適切なものか、議題の必要性を踏まえ、児童とともに選定をした。そして、２学期分のおおまかな計画を作成した。

児童から出された議題案

クラスの合言葉を考えよう、二学期のお誕生日会、クラス運動会、ギネス大会、長縄跳びチャレンジ、王様ドッジボール大会、ミニ文化祭など

９・１０月では、「クラスの合言葉」「クラス運動会」を行い、今回はミニ文化祭が選定された。

②　提案理由の練り上げ

輪番制の計画委員とともに学級会の前に計画委員会を実施した。「文化祭は小学校ではやったことがないけど、おもしろそう」と注目を集めた。提案者に相談すると「前回のミニ運動会が成功できたから。進修館高校の文化祭のように自分たちでも出店を経営してみたいから。」という提案者の思いを理解することができた。さらに「１月に高原学校があるので、クラスの友情を深めたい。」といった計画委員の思い、教師の願いを踏まえ、提案理由を設定した。

文化祭は小学校ではやったことがないので、おもしろそうだから提案しました。

前回のミニ運動会では、みんなで協力し成功させました。高校の文化祭のように自分たちでもお店をだせば、とても**楽しい**と思います。みんなでお店を出して**協力すれば、クラスの友情が深まり、みんなの絆も深まる**と思い、提案しました。

楽しいだけでなく、話し合う価値（必要性）を計画委員・提案者と考えた。

手立て②　時間の見通しをもって活動に取り組めるようにための工夫

①学級会ノートの活用

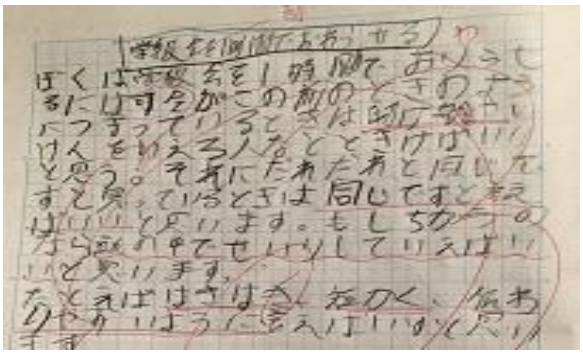
事前に話し合う柱や決まっていることが記入されたノートを印刷し、児童に宿題として案を考えさせておく。また、そのノートを事前に回収し、案を短冊に記入して「柱１の出し合う」は完了した状態から話合い活動を開始できるようにした。

②時間短縮案を各自に考えさせる

宿題の日記として、話合い活動での時間短縮について自分で考えらえる対応策や方法を書いてくるようにした。それらの案をクラス内で紹介して、一人一人が時間を意識するようにした。

③学級会グッズの活用

短冊や時計などのグッズを活用することで、　時間の短縮につなげるようにした。



（２）本時の活動（学級会）

話合いの順序	指導上の留意点（○）目指す児童の姿（◎）
１　はじめの言葉 ２　計画委員の紹介 ３　議題の確認 ４　提案理由の説明 ５　決まっていることの確認 ６　話合い （１）どんな出店にするか （２）どんな盛り上げる工夫をするか （３）どんな係が必要か	○計画委員にめあてを発表させ、意欲を高めさせる。 ○提案理由やめあてに沿った話合いになるように確認をする。 ○柱１の比べ合う段階から進められるように準備する。 ○学級会ノートの活用をするように伝える。 **◎どうしたらミニ文化祭が盛り上がるか、相手の意見を尊重しながら、理由を示して意見を述べている。** **（思考・判断・実践）【観察】**

きまったこと

出店：射的・輪投げ・怖い話・くじ引き・クイズ・もぐらたたき・ボウリング・銀行

サプライズ：前期代表委員へ感謝の寄せ書きをプレゼントする

（３）事後の指導

朝の活動（学級の時間）や業間・昼休みを活用して、協力しながら準備を進めることができた。本番では、前後半に分かれて手分けしながら取り組むことができた。銀行マンは、じゃんけんの結果によって渡す金額を変動させる工夫をしていた。欠席者もいたので、出店については、学習室に全て移動して、来週の月・火・水の昼休み限定で遊ぶことができるように決まった。

また、サプライズ演出については、前期代表委員に対して、どうしてもお礼をしたいと後期代表委員たちがこっそりと担任に相談してきたので、同時進行で寄せ書き作成も進行させ、無事に驚きと感動をプレゼントすることができた。

6　成果と課題

○事後の活動では、射的の鉄砲づくりで、手先の器用な子や怖い話で音読の上手な子など、各自の得意な力を発揮することができ、友達からの称賛を受けられるよい機会となった。

○「クラスのお金」「BGM」「サプライズ」「前後半」「オリジナル看板」など、盛り上げる工夫の質が上がってきたことを感じることができた。自分たちで授業を作り上げていく楽しさを味わわせることができた。

○ミニ運動会に続き、ミニ文化祭も成功させることができ、クラスへの所属感や自己有用感を高めることができた。

●話合いを１時間内に終わらせることが、まだまだ課題である。どうしてもヒートアップしてしまう場面があるので、朝の会や少しの時間を活用して、「折り合いをつける」「Ｃ案の考え方」などを繰り返し考えさせていきたい。

●本番までの準備が難しい。本学級に日常的に昼休みに練習をするクラブに在籍する児童がいたので、クラブ活動との両立が厳しかった。昼休みの準備等にかける、まとまった時間の確保が課題として残っている。